



イギリス・グラスゴーから
ラテンアメリカ・ニカラグアへ

carla's song

人間をあたたかいまなざして描きつづける
「大地と自由」の名匠ケン・ローチが
ついに放つ感動の人間ドラマ

哀しい瞳の君に、愛の歌を届けたい。

僕が君にしてあげられること――

ケン・ローチ監督作品

カルセラの歌

ロバート・カーライル / オヤンカ・カベサス / スコット・グレン
「トレインスポッティング」 ニカラグアの新星 「羊たちの沈黙」

美術：マーティン・ジョンソン / 撮影：バリー・アクロイド / 音楽：ジョージ・フェントン
脚本：ポール・ラヴァティ / 製作：サリー・ヒビン
イギリス映画 / 配給：エース ビクチャーズ

 '96ヴェネチア映画祭正式出品作品

CHANNEL FOUR FILMS presents a PARALLAX PICTURE PRODUCTION in
co-production with FEMO MEYER'S DITZTE PRODUKTIONEN and TOPNASC
FILMS S.A. with the assistance of the GLASGOW FILM FUND and THE INSTITUTE OF
CULTURE AND MEDIA AND PROTECTED FILM COMPANY LIMITED, THE
NORTHEN, WESTFALEN, TELEVISION ESPANOLA and ALTA FILMS
A PARALLAX PICTURE PRODUCTION with DITZTE PRODUKTIONEN and
DITZTE PRODUKTIONEN and TOPNASC FILMS and THE GLASGOW FILM FUND
© CHANNEL FOUR TELEVISION CORPORATION and THE GLASGOW FILM FUND



カルラの歌

ロバート・カーライル「トレインスポッティング」
オヤンカ・カベサスニカラグアの新星
スコット・グレン「羊たちの沈黙」
撮影：バリー・アクロイド / 音楽：ジョージ・フェントン
脚本：ポール・ラヴァティ / 製作：サリー・ヒビン
イギリス映画 / 配給：エース ピクチャーズ 発
'96ヴェネチア映画祭正式出品作品

イギリス・グラスゴーからラテンアメリカ・ニカラグアへ——
人間へのあたたかいまなざしを描きつづける
「大地と自由」の名匠ケン・ローチがついに放つ感動の人間ドラマ

グラスゴーのバス運転手と ニカラグアから来たダンサーの恋物語

ジョージがカルラと出会ったのは、グラスゴーを走るバスの中だった。黒く輝く髪と、深い悲しみをたたえた瞳。彼女はニカラグア舞踊団のダンサーだった。変わりばえのしない日々の生活に倦んでいたジョージにとって、カルラとの出会いは一条の光にも似ていた。彼女の憂いに沈んだ表情は、無言で救いを求めている。彼女のために何かをしてあげたい。ジョージの純粋な愛はカルラの傷ついた心を溶かし、やがて彼女の秘められた過去——故国ニカラグアとの断ち切れない絆——が明らかになってくる。

内戦が続くニカラグア。自由のためにともに戦い、傷ついた恋人アントニオ。かつて彼がカルラのために作り、二人で歌ったその歌。ジョージはカルラを愛するが故に、遙かイギリスからラテン・アメリカの国ニカラグアへと旅立つ。アントニオを、そして、カルラの歌を探して……。

イギリスの名匠ケン・ローチが、 エモーショナルにポリティックに綴る

ケン・ローチ。「秘密と嘘」のマイク・リー監督が「自分たちの心の支え」と言い、ステイブ・フリーアーズ、アラン・パーカーらが影響を受け、クジシトフ・ケシロフスキが敬愛したイギリスの名匠。紛れもなくローチは、今、世界で最も偉大な監督の一人となった。彼は「リフ・ラフ」「レイニング・ストーンズ」など、一貫してイギリスのワーキング・クラスの人々の生活を、温かいまなざしと独特のユーモアで描いてきた。そのナチュラルな語り口から生み出されるリアリティには比類がない。常に社会を鋭く見据え、「大地と自由」ではスペイン内戦を題材にして、95年カンヌ映画祭国際批評家連盟賞、ヨーロッパ映画大賞などを受賞した。

そんなローチの新作は、イギリス北部の都市グラスゴーのバス運転手と、ニカラグアからやって来たダンサーの切ない恋の物語。そして同時に、日本からもヨーロッパからさえも遠いニカラグアの政治状況を、真っ向から見つめた意欲作。社会的テーマとヒューマニズムとエモーションが見事に溶け合った、美しく感動的な映画である。



ラテンアメリカ、ニカラグアの真実を 鮮やかに映し出す

激しい内戦状態にあった87年のニカラグア。ジョージがそこで目にした現実は何？カルラやアントニオが強いられた過去の悲惨な体験とは？独裁者ソモサを革命で倒して79年に樹立したサンディニスタ政権と、第2のキューバ化を恐れたアメリカの非合法支援を受けて容赦ない武装攻撃を続ける右派ゲリラ組織コントラ。ローチは、両者が対立していた当時のニカラグアの真実を、アントニオを探する二人の旅の中に鮮やかに映し出す。

前半のグラスゴーの場面は「リフ・ラフ」のように軽やかに、ときに愛らしくロマンスを語り、ニカラグアに入ってから「大地と自由」のスケールそのままに、力強く革命の不屈の精神を謳う。これはまさに、今までのローチ映画の美しい特質をすべて備えた集大成的な作品。と同時に、最も情感豊かなラブ・ストーリーとなった。

脚本の表紙に記された文豪ジョージ・オーウェルの言葉が映画の心を代弁している。

“この目に映った君の笑顔をどんな権力も奪い去ることはできない
どんな爆撃もその澄みきった魂をうち砕くことはできない”



真実の体験がリアリティを生み出した

この映画の脚本を書いたポール・ラヴァティはもともとグラスゴーの弁護士だったが、人権団体の仕事でニカラグアを回ったときの体験をもっと多くの人に知らせたくて、5年がかりで脚本に仕上げた。彼から手紙を受け取ったローチは、そのアプローチに深い感銘を受け、二人で3年をかけて脚本を練り直した。

ジョージを演じるのは、ローチの「リフ・ラフ」で主役のステイブを演じ、大ヒット作「トレインスポッティング」では短気な男ベグビー役で鮮烈な印象を残したスコットランド出身の俳優ロバート・カーライル。対するカルラには、ニカラグアの新人女優オヤンカ・カベサスが抜擢された。また、「ライト・スタッフ」「羊たちの沈黙」などで知的な演技を見せたハリウッドの個性派スター、スコット・グレンが、不透明な過去を引きずるアメリカ人権保護団体のメンバー、ブラッドリーを陰影深く演じている。

スタッフは「リフ・ラフ」以降すべての作品に携わってきた製作のサリー・ヒビンや撮影のバリー・アクロイドをはじめとするおなじみローチ・ファミリーの面々。「レディバード・レディバード」「大地と自由」に続いて音楽を担当したのはジョージ・フェントン。映画のテーマを担う「カルラの歌」の、優しく切ないメロディーが心にしみ入る。

なお、「カルラの歌」は未だアメリカで公開の予定はたっていない。

3/11~ 感動のロードショー! (上映日程は劇場に) (お問合せ下さい。)

前売鑑賞券絶賛発売中! 一般1,500円(当日一般 1,800円の処)

梅田スカイビルタワーイースト4F 06(440)5977
梅田 ガーデンシネマ

※チケットぴあ、ローソン、主要プレイガイドにて発売中!

連日 11:20 1:50 4:20 6:50 (入替制)

